

NPO 法人金澤町家研究会シンポジウム



兼六元町 D邸



安江町「彦三町家」

見直され、活用される金澤町家

文化庁委託事業報告&意見交換会

金沢市における民間事業者による歴史的建築物活用の実態と自立への課題

平成30年2月24日(土)

13時30分~16時45分

金沢学生のまち市民交流館
交流ホール

金沢市片町2丁目5番17号(「片町きらら」裏)

参加：資料代 500 円 (招待者および学生の参加は無料)

主催：NPO 法人金澤町家研究会 / 後援：金沢市

【開催主旨】

金澤町家は1950(昭和25)年までに建築された木造建築の愛称ですが、貴重な歴史的資源です。「古い、暗い、寒い」などと敬遠され、取壊されてきた金澤町家が今見直され、活用されています。住まいだけでなく、レストラン、カフェ、店舗、ギャラリー、工房、ゲストハウスなど多様です。それらはまちなかにあるため、中心市街地の活性化に確実に繋がっています。

新幹線時代を迎え、観光客など来訪者が多くなっている中で、それらの活用事例を検証しながら、今後の金澤町家の活用の方をみなさまとともに展望したいと思います。

- ・開場・受付 13時～13時30分
- ・開始 13時30分
- ・基調講演 13時35分～14時45分
- ・事業報告 15時00分～15時25分
報告者：豊島 祐樹
(石川工業高等専門学校非常勤講師)
- ・パネルディスカッション
15時30分～16時45分
- ・閉会 16時45分
- ・意見交換会 18時～20時頃

【基調講演】13時35分～14時45分

関 由有子 (せきゆうこ設計室、一般社団法人 雁木のまち再生 代表理事)

講演「越後高田における町家活用の軌跡と特徴」

■プロフィール

上越市(旧高田市)出身、一級建築士、京都大学建築学科卒業、新潟県建築士会ヘリテージマネジャー。関西を中心とする木造の歴史的建造物(茶室・寺社・町家)に関心を寄せ、あわせて北欧の家具制作を学ぶ(1994～97年)。帰国後は上越市に戻り、木造住宅の建築設計業の傍ら、地域に残る雁木、町家、まちなみの保存活用事業を通じて、高田小町、高田世界館、瞽女ミュージアムなどの歴史的建造物の改修とまちづくり活動に関わる。



【パネルディスカッション】15時30分～16時45分

タイトル 「金澤町家の継承と利活用の進展に向けて」

パネリスト・町家 由美子 (ゲストハウス「初華」運営) ・橋本 浩司 (橋本建築造園設計代表)
・石浦 裕治 (金沢市町家保全活用室長) ・増田 達男 (金沢工業大学教授)
コーディネーター・川上 光彦 (金沢大学名誉教授)

【意見交換会】18時～20時頃

会場 OSTERIA DEL CAMPAGNE (オステリア デル カンパーニュ)

金沢市片町2-31-33 <http://campagne.jp/osteria/index.html>

参加費 5,000円(飲物代含む) ※要申込(2月19日(月)申込締切)

【参加申込・お問い合わせ】

NPO 法人金澤町家研究会

〒920-0854 金沢市安江町4-20

電話 076-254-0647 / fax 076-254-0657 / メール kanazawa-machiya@nifty.com

<http://kanazawa-machiya.net/>

